

# 飛魚



TANEGASHIMA  
MEDICAL CENTER

第 30 号

令和元年 8 月

社会医療法人 義順顕彰会 種子島医療センター

# 島民の皆さまに愛され 信頼される病院

私たちは思いやりの心と  
技術を研鑽する真摯な姿勢で  
豊かな地域医療の向上に努めます

## 基本方針

### 1. 地域に根ざし、信頼される病院

- ・誰でも、いつでも安心して利用できる、地域に密着した病院作りをいたします。
- ・救急体制を充実し、24時間対応します。
- ・地域医療機関などとの連携を図り、必要に応じた役割りを果たします。

### 2. 温もりと思いやりのある医療を提供する病院

- ・各部署の強い連携により温もりのあるチーム医療を行います。
- ・患者様の権利を尊重し、安全医療の推進に努めます。
- ・快適かつ安心して医療を受けられる療養環境を提供いたします。

### 3. 医療の質を高め、お互いに学び合える病院

- ・医療人として専門知識、技術の研鑽に努めます。
- ・患者様共々学びあい、ニーズに合った地域医療を目指します。

表紙「飛魚」：田上悠峯 書

「悠峯」とは、義順顕彰会会長 田上容正が、公益財団法人  
日本習字教育財団から命名された雅号です。

表紙写真

表紙写真

令和元年5月 天女ヶ倉(安納)より海から昇る朝日を撮影。

- ・カメラ：SONY Cyber-Shot DSC-HX30V
- ・撮影者：坂口 健

※第2回年報誌「飛魚」フォトコンテストの大賞は残念ながら該当者なしという結果でした。  
佳作をカット画像として使用させて頂いています。

# 目次 Contents

## 理念・基本方針

巻頭言	病院長 高尾 尊身	4
理事長挨拶	理事長 田上 寛容	6
「飛魚」の歴史		8

## 概要

概要	12
機能評価	15
沿革	18
組織図	23
委員会・会議組織図	24
常勤医師	25
職員数	26
病院日誌	27

## 実績

種子島医療センター	統計資料	36
	診療部門	44
	診療支援部門	55
	統計資料	59
	研修医受け入れ実績	62
	病院見学・実習・体験実績	63
へき地医療センター		66
田上診療所		68
わらび苑		70
関連施設		72

## 寄稿

扁額「飛魚の如く」のこと	会長 田上 容正	74
鉄砲に倣い、種子島医療センターを革新的リハビリテーション治療の発信基地へ	促通反復療法研究所所長 川平 和美	76
飛魚に寄せて	医師 瀬戸山 充	77
飛魚第30号を記念して	鹿児島大学医学部保健学科外科分野 教授 新地 洋之	82
田上病院勤務の思い出	鹿児島大学医学部保健学科 根路銘 安仁	83
モザンビークアイキャンプ	副院長 田上 純真	84
『種子島でも「いのちの授業」を!』	NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾	85
感染管理認定看護師の活動について	看護師 下江 理沙	86
がん化学療法看護認定看護師を取得して	看護師 山之内 信	87
Life on the Longboard 2nd Wave	種子島医療センター看護PR大使 松原 奈佑	88
はじめまして、姫野 ナルです	テニスプレイヤー 姫野 ナル	89
永年勤続40周年を振り返って	主任 門脇 輝尚	90
研修を終えて		91

---

**部門別紹介**

---

**【診療部】**

外科	107
総合診療科	108
消化器内科	110
眼科	111
整形外科	112
小児科	113
麻酔科	117
泌尿器科	118
肝臓外来	118
脳神経内科	119
糖尿病内科外来	120
呼吸器内科	120
ペインクリニック科	121

**【看護部】**

看護部	123
外来	125
手術室・中央材料室	127
外科・脳外・整形病棟(2階病棟)	128
内科・眼科・小児科病棟(3階西病棟)	130
地域包括ケア病棟(3階東病棟)	132
回復期リハビリテーション病棟(4階病棟)	134
透析室	136
クラーク室	137

**【診療支援部】**

薬剤室	139
中央画像診断室	140
中央検査室	143
臨床工学室	145
栄養管理室	147
リハビリテーション室	148
各チーム紹介	149
組織図	155
療法士修了書一覧	156
地域医療連携室	157

**【事務部】**

総務課	160
医事課	161

**【直轄部門】**

DMAT	164
医療安全管理室	165
システム管理室	166

---

**院内委員会活動**

---

院内感染対策委員会	168
NST(栄養サポートチーム)委員会	169
緩和ケア委員会	170
化学療法委員会	171
看護部教育委員会	172



クリニカルパス委員会	173
リスクマネジメント委員会	176
医療安全管理委員会	176
接遇委員会	178
看護部記録委員会	178
輸血療法委員会	179
災害対策委員会	180
褥瘡対策委員会	180
医療ガス・設備安全管理委員会	181
院内レクリエーション委員会	182

---

## 関連施設

---

田上診療所	186
訪問介護ステーション・野の花	187
わらび苑	188
院内保育所	190

---

## 活動紹介

---

へいじろう紹介	192
種子島鉄砲祭り	193
TSC (種子島医療センターサーフィン部)	194
第28回 種子島医療センター杯ジュニアバレーボール大会	195
種子島医療センターゴルフ部紹介	196
種子島医療センターテニス部	197
3x3エクスペローラーズ鹿児島	198
種子島鉄砲ゲートボール大会に参加して	200
つながる想い in かごしま	201
サロン 種子島	202
転倒転落防止WG	204
摂食嚥下WG	205
認知症ケアWG	206
ドクターヘリ	209
地域包括ケア病棟	210
新入職員研修	211
ふれあい看護体験報告	212
リハビリテーション職業体験&セミナー	214
ボランティア受け入れ報告	215
平成30年現地施設見学会を開催して	217
報道・広報関係	218

---

## 研究・研修

---

業績	220
医師業績	222
看護師業績	222
療法士業績	222
研究発表会	223
研修報告書優秀者・努力賞	224
院内研修会・講演会実績	226
永年勤続表彰者	228



社会医療法人義順顕彰会  
種子島医療センター  
病院長 高尾 尊身

令和元年、新元号初の年報「飛魚」発行にあたり、改めて種子島医療センターが種子島の医療を担うことの意味を考えてみようと思います。私が病院長として赴任してから、瞬く間に5年が経過しました。この間、鹿児島大学病院との連携強化、病院機能評価をはじめ幾つかの病院改革を行ってきました。年報「飛魚」のリニューアルもそのひとつです。年間の診療、手術などの具体的な数値とその評価、各部署の役割、各委員会による診療の改善と向上など、種子島医療センターにおける一年間の医療の総まとめを「飛魚」で知ることができるようになっていきます。新しい時代、医療の進歩や改革の更にその先に、離島医療はどうなっていくのか、種子島医療センターはどこへ向かうのか、その答えは「飛魚」の中にあると言えるかもしれません。

「離島医療」は「都市医療」に対比する言葉です。「離島医療」とひと口で言っても、それぞれの離島には異なるニーズ、異なる医療態勢が存在することはいうまでもありませんが、医療従事者の絶対数の不足、また人口減少に伴う患者数の自然減少などの問題は、離島において本土よりもはるかに深刻であることは共通しています。これらの課題に対応する病院運営の工夫、そして何より医療の質の維持が最も大切です。そのために重要なことは「理念」の浸透と、その理念を実践できる「人材」の確保です。

医療のAI改革が報道を通じて大いに喧伝されていることは皆さんもご承知のことと想います。しかし医療現場においては、まだ当分の間はAIでは肩代わりできないと思われる、人間対人間の医療サービスが大部分を占めます。時代は新しくなっても、現場の医療従事者の役割の重要性は決して変わることはありません。一方、変化が著しいのは疾患構成で、高齢者医療の占める割合が増大しています。成人病としてのがん、糖尿病、高血圧などが増加していることは勿論ですが、さらに認知症が加わり、診療方針に大きな影響を与えるようになってきました。平成時代の生活習慣病に対する取り組みにより、平均寿命は更に伸び、その結果、認知症罹患患者数は自然と増加する傾向にあります。令和時代は認知症に挑む時代と言えるかも知れません。その対策としての地域包括ケア、在宅医療の推進、リハビリテーションによる機能回復支援の重要性は高まる一方です。高次脳機能障害等に対するリハビリテーションの成果には目覚ましいものがあり、今後の高齢者医療への貢献が益々期待されます。

「過去は変えることは出来ないが、未来は変えることが出来る」という言葉があります。確かに過去は変えられませんが、過去を振り返り、未来へ受け継いでいくものを選択することは出来ます。と同時に、未来において変えていかなければならないものを判断しなければなりません。受け継ぐものと、改革するもの、それらの決断が令和の時代に相応しい病院となるための鍵となるでしょう。鉄砲伝来の歴史と豊かな自然、そして先端科学としての宇宙センターを有する種子島には、新しいものを受容する心の豊かさが文化として根付いています。そして、そのことは種子島の医療のあり方にも少なからず影響を与えています。種子島医療センターは「時代を受け入れていく病院」であり続ける。それは、私たちが飛魚の如く、「成長し飛躍できる病院」を目指さすことに他なりません。種子島で医療に携わることに情熱とプライドを持ち、私たちの理念を胸に刻み、決然と未来へ突き進む「時代」の始まりです。



回復期リハビリテーション病棟入院患者の皆さんの作品



めいろうこども園の七夕慰問



回復期リハビリテーション病棟にて

## 理事長挨拶

---



社会医療法人義順顕彰会  
種子島医療センター  
理事長 田上 寛容

月に2回訪問診療に出かけます。

道中に見える海の色は青く、山の緑はとても綺麗で、道端には花々が咲いており、仕事ですがとても癒された気分になります。家にいくと、ご家族の付き添いのある方もあれば、おられない方もいらっしゃいますが、静かな佇まいの中でのゆったりとした暮らしがよく分かり、こんないい環境で、そして住み慣れた場所で、できるだけ生活させてあげたいという思いが募ります。

種子島は、自然が豊かで美しく、島の人は穏やかに暮らしています。混雑や渋滞とは無縁で、それでいて生活に不自由することはなく、最近では、そんな暮らしがたくて種子島に移住する方も少なくありません。ただ、人が離島で生活していくのに、どうしても必要なのは病院です。

急病が発生したときはそれに対応できなければいけません。病状が安定すればリハビリが必要です。良くなって自宅に帰ることが出来ればよいのですが、家族の都合や病気の程度で施設に移る方もいらっしゃいます。また退院した後も介護サービスが必要な方が多くおられます。これらの島内で必要な医療介護サービスを総合的に提供するのが我々の法人の役割だと思います。

あたらしい令和の時代を迎えた今、この日本で問題になっているのは少子高齢化です。ここ種子島でも、明らかに人口減少が進み、少子高齢化は顕著になってきています。これからも、その流れは止まらないという予測も出ています。そうすると最も問題となるのは、医療介護の現場における人材不足です。

人口減少は進みますが、医療介護の利用者はしばらく減少しないというデータがあり、それに必要な人材を確保するために、これから島内はもとより県内、大都市部を含めた県外からも人材の確保を行っていかねばなりません。

---

種子島はそれだけで、人が住んでみたくなるような美しい島ではありますが、これからの種子島で医療介護を島民の方に提供し続けていくために、最も重要な課題が人材の確保です。そのためには、離島医療の良さである温かさや身近さを伝えること、島内での医療介護の質を上げていくことが重要と思われま

私達の法人は、ここで暮らす人のための組織です。

これからも、この種子島で暮らす方々に満足していただける良質な医療介護を提供していくために、職員みんなで力を合わせていきたいと思





# これまでに発行した「飛魚」



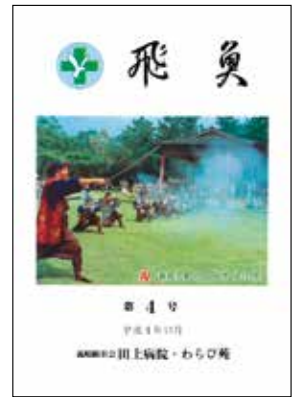
創刊号



第2号



第3号



第4号



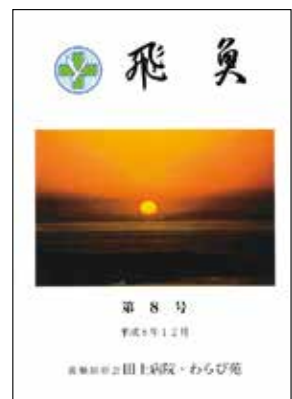
第5号



第6号



第7号



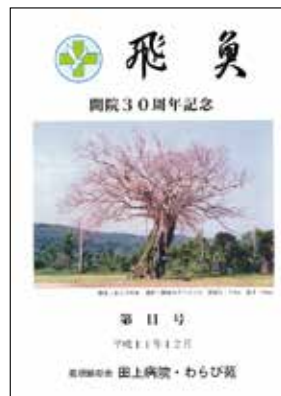
第8号



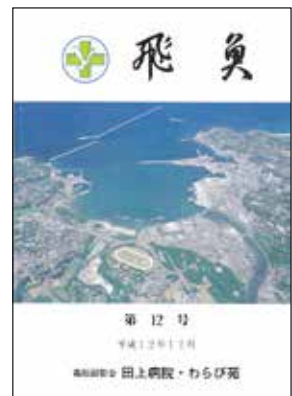
第9号



第10号



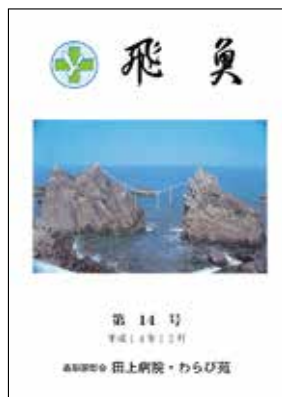
第11号



第12号



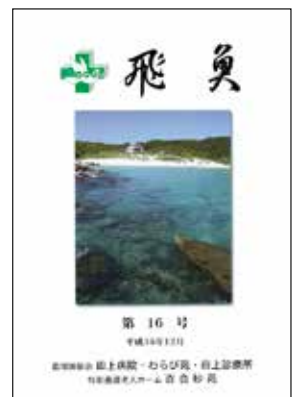
第13号



第14号



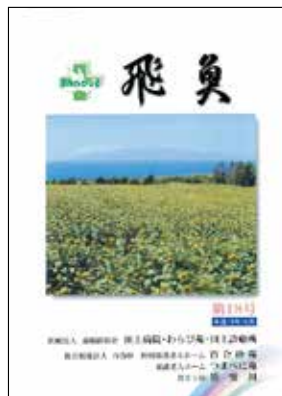
第15号



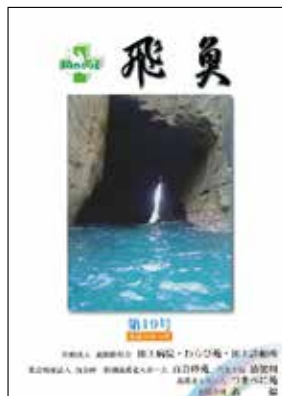
第16号



第17号



第18号



第19号



第20号



第21号



第22号



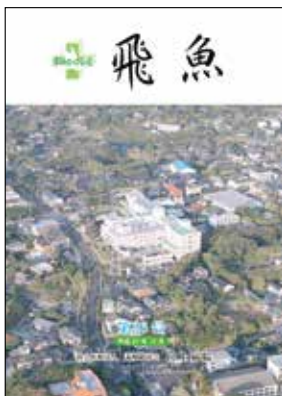
第23号



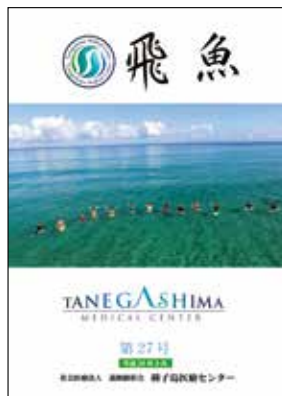
第24号



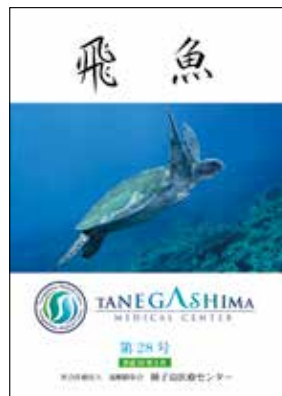
第25号



第26号



第27号



第28号



第29号





---

# 病院概要

---

概要

機能評価

病院沿革

組織図

委員会・会議組織図

常勤医師

職員数

病院日誌

---

# 概要

- 1) 名称 社会医療法人 義順顕彰会 種子島医療センター
- 2) 所在地 〒891-3198  
鹿児島県西之表市西之表 7463 番地
- 3) 電話・FAX 電話：0997-22-0960 FAX：0997-22-1313
- 4) メールアドレス master@tanegashima-mc.jp
- 5) ホームページ <http://www.tanegashima-mc.jp>
- 6) 開設者 社会医療法人 義順顕彰会
- 7) 管理者 高尾 尊身
- 8) 診療科目 内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科  
〔26科〕  
眼科、リハビリテーション科、麻酔科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科  
耳鼻咽喉科、放射線科、呼吸器内科、心療内科、神経内科、血液内科  
糖尿病内科、肝臓内科、腎臓内科、ペインクリニック内科、消化器外科  
肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科
- 9) 病床数 204床（うち3階西病棟に感染症病床2床）

病棟名	主診療科	病床数	4床室	2床室	1床室
2階病棟	外科 整形外科 脳神経外科	55	11	3	5
3階西病棟	内科 小児科 眼科	59	12	3	5
3階東病棟	地域包括 ケア	42	7	4	6
4階病棟	回復期 リハビリ	48	9	3	6
合計		204	39	13	22

## 10) 指定種別

- ① 保険・公費負担医療機関
  - 感染症指定医療機関（第二種）
  - 感染症指定医療機関（結核）
  - 労災保険指定医療機関
  - 指定自立支援医療機関（育成医療）
  - 指定自立支援医療機関（更生医療）
  - 指定自立支援医療機関（精神通院医療）
  - 生活保護指定医療機関
  - 特定疾患治療研究事業委託医療機関
  - 小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
  - 肝炎治療特別促進事業指定医療機関
  - 戦傷病者特別援護法指定医療機関
  - 原子爆弾被害者医療指定・原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
- ② 病院機能
  - DMA T 指定病院
  - D P C 対象病院
  - へき地医療指定病院

災害拠点病院  
 原子力災害医療協力機関  
 救急告示病院Ⅱ類（救急指定二次）  
 S A R S 受入医療機関  
 エイズ治療・協力病院  
 地域がん診療病院  
 難病医療指定協力医療機関  
 特定健診委託医療機関  
 結核予防法指定病院  
 結核ハイリスク者健診事業受託医療機関  
 人間ドック契約病院  
 ATL 検査委託実施医療機関  
 日本赤十字センター血液製剤備蓄所  
 肝炎診療専門医療機関  
 消化器がん検診精密検査実施協力医療機関  
 大腸がん検診精密検査実施協力医療機関  
 肺がん検診精密健診実施協力医療機関  
 低線量 CT 肺がん検診助成事業受託医療機関  
 乳がん検診業務委託医療機関  
 石綿・じん肺検診委託医療機関  
 予防接種相互乗り入れ医療機関  
 日本整形外科学会認定研修施設  
 日本麻酔学会麻酔科認定病院  
 臨床研修関連病院  
 日本外科学会外科専門医制度関連施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本病院会病院総合医育成プログラム認定施設

## 11) 施設基準

### ① 基本診療料の施設基準

第 309 号	一般病棟入院基本料 4
第 9 号	診療録管理体制加算 1
第 12 号	医師事務作業補助体制加算 1
第 3 号	急性期看護補助体制加算
第 85 号	療養環境加算
第 461 号	重症者等療養環境特別加算
第 25 号	栄養サポートチーム加算
第 57 号	医療安全対策加算 2
第 78 号	感染防止対策加算 2
第 59 号	総合評価加算
第 18 号	後発医薬品使用体制加算 2
第 27 号	データ提出加算 2（許可病床200床以上）
第 56 号	認知症ケア加算 2

### ② 特定入院料

第 23 号	小児入院医療管理料 4
第 1 号	回復期リハビリテーション病棟入院料 3
第 31 号	地域包括ケア病棟入院料 2

## ③ 特掲診療料の施設基準

第 153 号	がん性疼痛緩和指導管理料
第 41 号	がん患者指導管理料イ
第 34 号	がん患者指導管理料ロ
第 345 号	ニコチン依存症管理料
第 21 号	がん治療連携計画策定料
第 168 号	薬剤管理指導料
第 66 号	医療機器安全管理料 1
第 99 号	検体検査管理加算 (1)
第 28 号	ヘッドアップティルト試験
第 93 号	神経学的検査
第 187 号	コンタクトレンズ検査料 1
第 17 号	小児食物アレルギー負荷検査
第 288 号	CT 撮影及び MRI 撮影
第 21 号	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
第 35 号	外来化学療法加算 2
第 61 号	無菌製剤処理料
第 56 号	脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
〃	初期加算 (脳血管等)
第 96 号	運動器リハビリテーション料 (I)
〃	初期加算 (運動器)
第 49 号	がん患者リハビリテーション料
第 14 号	認知療法・認知行動療法 1
第 81 号	人工腎臓
第 69 号	導入期加算 1
第 3 号	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
第 80 号	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
第 38 号	大動脈バルーンパンピング法 (IABP 法)
第 41 号	胃瘻造設術
第 17 号	輸血管理料 II
第 2 号	輸血適正使用加算
第 26 号	人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算
第 22 号	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
第 101 号	麻酔管理料 (I)
第 6 号	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作成

## ④ 入院時食事療養及び入院時生活療養

第 335 号	入院時食事療養 / 生活療養 (I)
〃	食堂加算

## ⑤ その他の施設基準

第 41329 号	酸素の購入単価
-----------	---------

## 病院機能評価に託した思い

### 病院長 高尾 尊身



種子島医療センター病院長に着任した時にいくつかの改革をしなければならないと思った項目の一つが「病院機能評価」でした。そこで、日本医療機能評価機構が行う二次医療圏等の広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院を対象としている「一般病院2<3rdG:Ver.2.0>」を受審することにしました。

離島医療に対する考え方は色々あると思いますが、その地域の歴史、文化、人口等によって異なる形態の離島医療が存在するのではないのでしょうか。また、進歩する医療を積極的に

取り入れていくか、否かでも離島医療の性格は大きく異なります。種子島は独特な歴史、文化そして宇宙センターのある我が国でも稀有な島です。この種子島での医療に高い質が求められるのは必然かも知れません。私たちの理念である「信頼される病院」を目指すためにも「病院機能評価」は避けて通れない試練だったのです。

1年間の準備期間は、私たち全員が同じ目的に向かって努力した期間でもあります。そして、病院機能評価を受審しました。結果は御承知の様に「一般病院2<3rdG:Ver.2.0>」の認定病院となりました。種子島の人たちが誇れる病院へ、私たちはその第一歩を踏み出したのです。

## 病院機能評価を受審して

看護局長 山口 智代子

当院は、平成30年11月21日～22日の2日間にわたり、日本医療機能評価機構による一般病院2<3rdG:Ver2>の訪問審査を受けました。平成16年、平成22年に認定を受け、今回3回目の受審は、高尾病院長の元で8年目の新たな受審となりました。

医療機能評価は、組織全体の運営管理および提供される医療について、中立的、科学的・専門的な見地から行う評価であり、病院に求められる適正な機能が備わっているかを医療、安全、経営などの多面的な視点で第三者組織が評価する制度です。その為、6名の各専門分野のサーベイヤーが来院し、書類や現場を厳正に調査し、基準を満たしているか審査する事になります。

1年前から準備を開始し、準備万全で当日を迎えるはずでしたが、実際には前日まで準備に追われ、不安の中で訪問審査を迎える事になりました。

今回の審査には、医療現場での実践を検証する「ケアプロセス調査」が新たに導入されており、代表的な症例を4例選出し、関係職種を一堂に集めて、その患者様の外来診療から退院まで実施された診療行為を記録に基づいて説明しなければなりません。

初めてのケアプロセス調査で、自分達が行ってきたプロセスをサーベイヤーに自信をもって答える事が出来るように、審査さながらの模擬練習を数回実施しました。

今回のケアプロセス調査は、戸惑いと不安だらけでしたが、他職種の業務理解と協力関係の構築に繋がったのではないかと思います。

また、審査2日目の終了前に看護サーベイヤーの方が、各部署の看護管理者と面談の時間を設けて下さいました。看護管理者として初めて受審の準備に携わった看護師長は、「この一年、師長になり不安が大きかった。受審準備で、しなければならない事を整理し、どうにか訪問審査を迎える事が出来た。」とこれまでの準備の過程を振り返り涙ぐむ場面もありました。サーベイヤーの方から「看護部が、頑張っている事がよく分かりました。」の評価と具体的なアドバイスを頂き、各看護師長のモチベーションUPに繋がったようでした。

中間評価報告では、1つの指摘事項がありましたが、書類送付による追加審査を受け令和元年6月に認定を受けることが出来ました。今回の機能評価は管理者だけではなく、一人一人が自分の出来る事に取り組み、職員が一丸となって改善に取り組んだ努力と熱意の成果だと思っています。結果に満足することなく、今後も改善を重ね医療の質の向上と地域の皆様の期待に応えられる医療の提供に努めていきたいと思っています。



## 病院機能評価を受審して

事務局長 羽生 守彦

平成30年11月21日・22日に日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院2<3rdG:Ver.2.0）を受審した。C評価が1件あったため、即認定には至らなかったが、再審査申請の手続きを行い、5月上旬に認定通知を受けた。

病院機能評価の目的は言うまでも無く、外部機関が病院の医療機能、患者サービス、ガバナンスなどを総合的に評価し、評価の結果、明らかとなった課題に対して、病院組織が継続して質の改善活動に取り組み、医療の質の向上を図るためのものである。

本院は、平成21年6月に始めてVer5.0で受審し、認定基準を達している旨の認定証を受領している。しかし、その後更新の無いまま今日に至っていた。

病院名の変更も相まって、高尾病院長の下、病院としての機能、医療の質が担保されているかの確認を行うべきであるとの話が出てきた。

平成29年10月の運営会議で、病院長から病院機能評価を受審することの趣旨説明が行われ、1年後の受審を目途に準備を進めることが決められた。その総括責任者に山口看護局長と事務局長が指名された。看護局長は、前回の受審の際の責任者として奮闘した経験を持ち、頼もしい存在であった。

まずは、解説集の機能評価項目別に、領域毎の資料の収集と各部署への自己評価書の作成から始めたが、なかなか集まらない状況であった。各種資料、マニュアルの整理整頓が成されていない、会議の議事録が閲覧できるように整理出来ていない、業務の流れがお座りになっている、エビデンスとなるものがないなどの壁に突き当たった。また、こちら側の意図がうまく伝わらず、何回も作成をお願いした部署もあった。

このようなことを繰り返しながら、自己評価票の提出は締切間近までに、領域毎の資料収集は、受審日間近に完成するという難産であった。また、施設的にも、掲示板の交換、床のワック掛け、高所の清掃、壁の塗り替えなど1年間に渡り準備を進めてきたが、満足の行く準備が出来たかどうかは疑問であった。

検査当日は、サーベイヤ6名（診療・看護・事務の各部門2名）が来院し、評価審査が実施された。職員一同緊張した面持ちで、検査開場での面談、病棟・各部署訪問調査、ケアプロセス調査と2日間の審査日程をこなした。最終日の全体講評では、各領域、各領域毎に評価結果の報告があり、改善すべき点が数多く浮き彫りにされた。

全体講評の結果で指摘された点の改善に取り組みながら、評価結果の中間報告を待った。中間評価が届いたのは、受審から2か月が経った平成31年1月21日であった。その結果は、評価項目89項目中、S:秀でている 0件、A:適切に行われている 64件、B:一定の水準に達している 22件、C:一定の水準に達しているとはいえない 1件、NA:該当なし 2件であった。

今回の機能評価受審を振り返り、正確な記録、エビデンスの重要性、内部から見た目と外部から見た目の違いの大きさに改めて気付かされた受審であった。3年後にはさらに厳しい中間評価が待っている。今回よりさらに上の評価を目指して、職員一同一層の努力が求められている。

最後に、改善すべき課題は個々の業務の中にあり、常に問題意識、改革する視点を持ち業務を行うことが必要である。職員の行動・言動に対し、良いことを良いと褒め、悪いことを悪いと注意することが出来ない職場は、発展性がなく、何時かは衰退していく。そうならないためにも、お互いを尊敬しつつも、善し悪しの言える職場であってほしい。その積み重ねが病院の機能や医療の質の向上に繋がり、自ずと評価にも反映されると考えている。

病院機能評価受審のため、努力、協力くださった職員一同に感謝いたします。

## 沿革

年 月	概 要
昭和 44 年 12 月	田上容正内科(診療所)開設
昭和 55 年 02 月	人工透析開始
昭和 56 年 09 月	医療法人容正会 設立
昭和 57 年 05 月	病院(28床)へ
昭和 59 年 03 月	56床病院を新築 全身用CTスキャナ設置
昭和 59 年 07 月	医療法人義順顕彰会 設立
昭和 60 年 11 月	病床数99床へ
平成 03 年 07 月	老人保健施設わらび苑 開設(入所50床、通所10名)
平成 06 年 01 月	MR I 設置 脳神経外科 新設 【標榜科目(8)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、理学療法科、脳神経外科
平成 06 年 02 月	病床数 202床へ
平成 06 年 07 月	泌尿器科 新設 【標榜科目(9)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、理学療法科、脳神経外科、泌尿器科
平成 07 年 01 月	病床種別変更 一般病床202床→157床 療養型病床群 45床新設
平成 07 年 03 月	わらび苑 痴呆棟開設のため78床に増床(痴呆20床、一般58床)
平成 08 年 11 月	理学療法科をリハビリテーション科に変更 リウマチ科 新設 【標榜科目(10)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科
平成 09 年 04 月	眼科 新設 【標榜科目(11)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、眼科
平成 09 年 05 月	訪問看護ステーション「野の花」開設
平成 11 年 04 月	田上病院 院長 田上容祥 就任
平成 11 年 06 月	理学療法Ⅱ 認可
平成 12 年 02 月	麻酔科、放射線科 新設 【標榜科目(13)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、眼科、麻酔科、放射線科
平成 13 年 02 月	増築工事6階建 増築
平成 13 年 05 月	作業療法Ⅱ 認可
平成 14 年 08 月	循環器科 新設
平成 14 年 08 月	リウマチ科 廃止 【標榜科目(13)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器科
平成 15 年 02 月	オーダーリングシステム稼動開始(シーエスアイ)



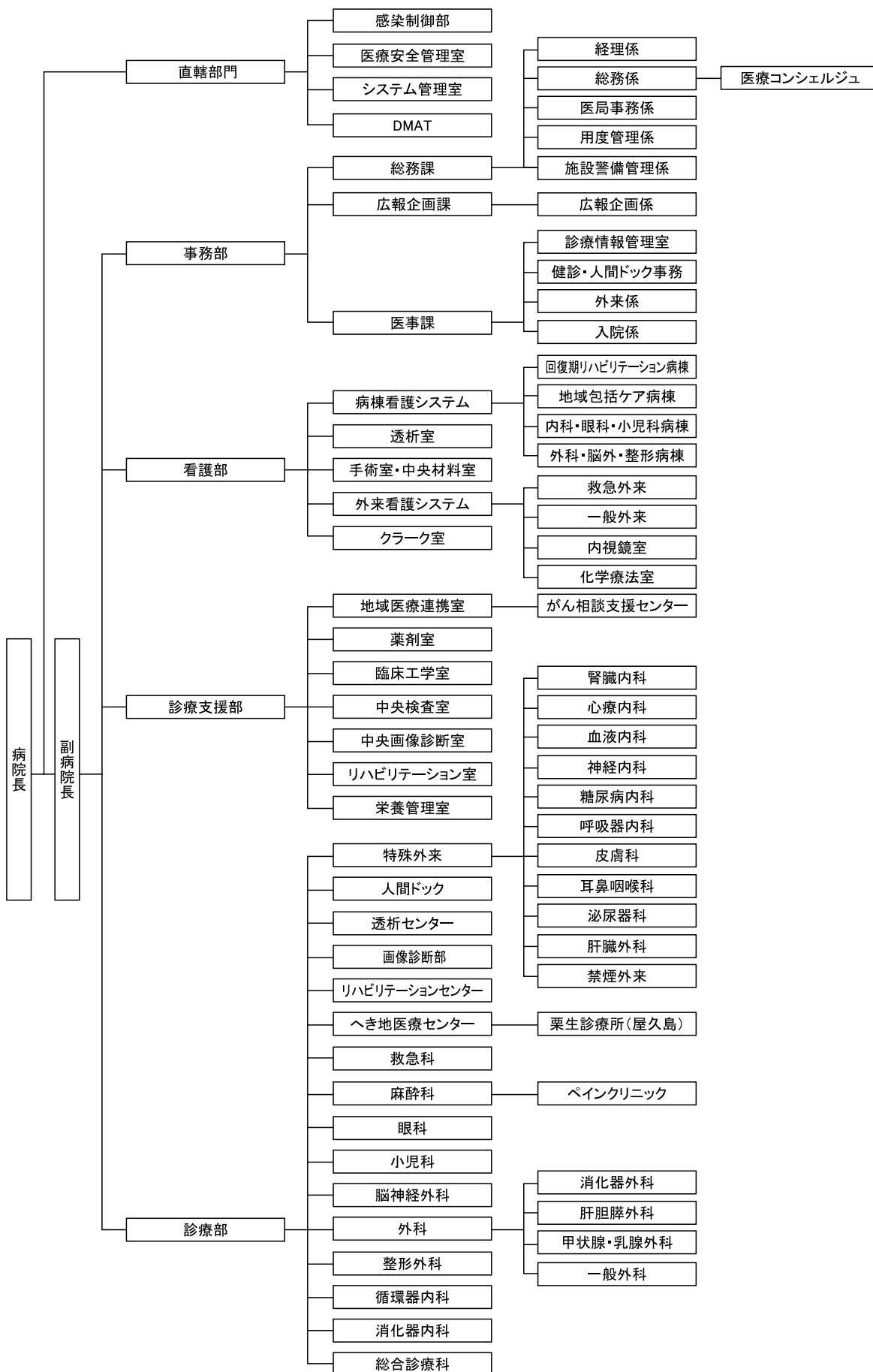
平成 15 年 05 月 平成 15 年 06 月	第二種感染病床 2 床、結核モデル病床 2 床 使用許可 病床種別変更 一般病床 1 5 7 床→2 0 2 床(うち第二種感染症病床 2 床) 結核モデル病床 2 床 新設 療養型病床群 廃止
平成 15 年 08 月	病床種別変更 一般病床 2 0 2 床のうち、回復期リハビリテーション病棟(3 6 床) 認可
平成 16 年 01 月	電子カルテシステム稼動(診療記録)(シーエスアイ)
平成 16 年 05 月	心臓カテーテル検査開始
平成 16 年 06 月	病院機能評価 複合B 認定 地域リハビリテーション広域支援センター指定
平成 16 年 10 月	病棟再編 内科病棟・整形病棟移動
平成 18 年 04 月	病棟再編 1 5 対 1 入院基本料(1 6 6 床) 結核入院基本料(2 床) 回復期リハビリテーション病棟(3 6 床)
平成 18 年 05 月	病棟再編 1 5 対 1 入院基本料(2 0 2 床) 3 階東病棟 回復期リハビリテーション病棟の取り下げ 3 階東病棟・4 階病棟移動
平成 18 年 07 月	病棟再編 1 5 対 1 入院基本料(1 5 4 床) 結核入院基本料(2 床) 4 階病棟 回復期リハビリテーション病棟(4 8 床)
平成 18 年 09 月	1 3 対 1 入院基本料(1 5 4 床)
平成 18 年 11 月	1 0 対 1 入院基本料(1 5 4 床)
平成 19 年 01 月	心療内科外来 新設 【標榜科目(14)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、眼科、麻酔科、放射線科、心療内科
平成 19 年 12 月	看護師寮新築
平成 20 年 01 月	中央材料室・手術室 改築
平成 21 年 04 月	亜急性期病床 8 床運用開始(3 階東病棟 8 床) D P C 請求開始 管理棟 新築 呼吸器科 新設
平成 21 年 04 月	【標榜科目(15)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科
平成 21 年 05 月	薬局改築、安全キャビネット・クリーンベンチ導入
平成 21 年 06 月	日本医療機能評価 V e r . 5 . 0 認定
平成 21 年 09 月	亜急性期病床 1 2 床へ増床(3 階東病棟 8 床、3 階西病棟 4 床)
平成 22 年 02 月	リウマチ科 新設 【標榜科目(16)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科、リウマチ科

平成 22 年 04 月	社会医療法人 認定 会長に田上容正 就任
平成 22 年 06 月	理事長に田上寛容 就任
平成 22 年 08 月	副院長に田上純真 就任
平成 22 年 12 月	ハイケアユニット 4床設置(2階病棟)
平成 23 年 04 月	鹿児島県がん診療指定病院指定 消化器内科 新設 【標榜科目(17)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科、リウマチ科、消化器内科
平成 23 年 08 月	新電子カルテシステム稼働(ソフトウェア・サービス)
平成 24 年 09 月	亜急性期病床 16床へ増床(3階東病棟 12床、3階西病棟 4床)
平成 24 年 11 月	ハイケアユニット 4床廃止
平成 25 年 01 月	介護保険訪問リハビリ開設
平成 25 年 04 月	亜急性期病床 20床へ増床(2階病棟 8床、3階東病棟 8床、3階西病棟 4床)
平成 25 年 05 月	320列CT導入 MRI更新 検査室、小児科周り改修工事
平成 26 年 01 月	X線TV装置(X線透視装置)更新
平成 26 年 02 月	生化学検査機器更新 自動精算機1、2号機更新
平成 26 年 04 月	副会長に田上容祥 就任 院長に高尾尊身 就任 副院長に山口智代子 就任
平成 26 年 08 月	放射線室内ネットワーク機器更新
平成 26 年 09 月	検査画像統合システム、放射線情報管理システム更新
平成 26 年 10 月	亜急性期病床廃止 遠隔医療支援システム(SCOPIA)稼働
平成 26 年 12 月	自動分包機稼働
平成 27 年 01 月	病棟再編 3階東病棟 地域包括ケア病棟(42床)
平成 27 年 03 月	副会長 田上容祥 辞職
平成 27 年 04 月	脳神経外科医師の非常勤体制開始(常勤医不在) へき地診療支援センター 開設 へき地診療支援センター センター長に猿渡邦彦 就任 法人事務局長に羽生守彦 就任 肝臓内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、神経内科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科 新設 【標榜科目(25)】 内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器内科、心療内科、呼吸器内科、リウマチ科、消化器内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、神経内科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科
平成 27 年 05 月	遠隔病理診断システム導入 末血検査機器更新 医師住宅 5棟完成(松島) ステラッド滅菌器更新

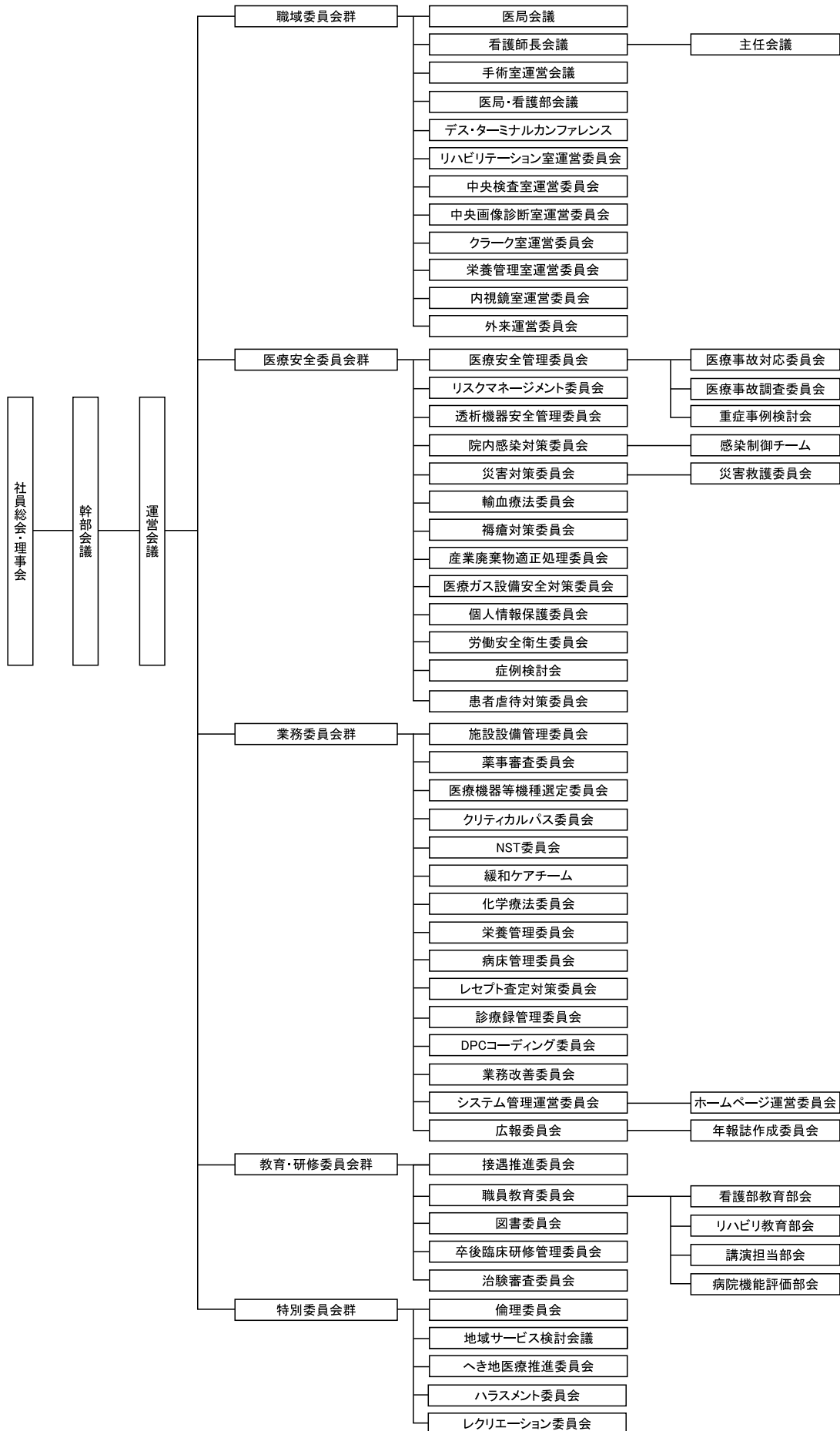
	<p>ペインクリニック内科 新設</p> <p>【標榜科目(26)】</p> <p>内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器内科、心療内科、呼吸器内科、リウマチ科、消化器内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、神経内科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科、ペインクリニック内科</p>
平成 27 年 06 月	鼻用手術装置導入
平成 27 年 07 月	田上診療所休診 (8月末まで)
	耳鼻科手術開始
平成 27 年 08 月	回転用X線撮影装置 更新
	外科用X線テレビシステム 更新
平成 27 年 09 月	病理解剖 1 例目実施
平成 27 年 10 月	脳神経外科 常勤医師による診療開始
平成 28 年 01 月	無停電源装置 更新
平成 28 年 03 月	結核病棟の陰圧工事
平成 28 年 04 月	病院名を種子島医療センターに変更
	病院長補佐に花園幸一外科部長、北園和成内科部長を任命
	看護局長に山口智代子 就任
	看護部長に戸川英子 就任
平成 28 年 05 月	地域がん診療病院に指定(厚生労働省)
	がんサロン「サロン種子島」開設
	医師住宅(単身赴任者用) 2 棟完成(松島)
	眼底撮影システム一式 更新
平成 28 年 08 月	全自動散剤分包機(Sinngle-R93Z II)更新
平成 28 年 09 月	病院内空調機 更新
	訪問リハビリテーションを訪問看護ステーション「野の花」に編入
平成 28 年 10 月	鹿児島県行政視察(県議会環境厚生委員会)
平成 28 年 12 月	超音波診断装置ARIETTA70 更新
	生体情報モニターシステム(オムロンV7000)更新
平成 29 年 01 月	種子島医療センター病院祭(於:西之表市民会館)
	特別講演 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實
平成 29 年 02 月	病理解剖 2 例目実施
平成 29 年 03 月	わらび苑施設長 松山隆美氏 辞職
	医師住宅 2 棟完成
平成 29 年 04 月	わらび苑施設長 猿渡邦彦氏 就任
平成 29 年 05 月	鹿児島県総合防災訓練参加(DMAT隊)
平成 29 年 06 月	第 1 回職員ボーリング大会(鹿児島市)
平成 29 年 07 月	内視鏡室改修及び内視鏡システム更新
平成 29 年 09 月	ベッド更新 10 台
平成 29 年 10 月	「日本ヒト細胞学会学術集会 in 種子島」開催
	大会会長 病院長 高尾尊身
平成 30 年 03 月	平成 29 年度西之表市災害対策訓練参加
	医師住宅 2 棟完成
平成 30 年 04 月	わらび苑施設長 猿渡邦彦氏 種子島医療センターへ異動
	わらび苑施設長に池村紘一郎氏 就任
	ベッド更新 50 台
平成 30 年 04 月	看護師特定行為研修者養成開始 2 名を鹿児島大学へ派遣

平成 30 年 06 月	IABP装置 導入
平成 30 年 06 月	Life on the long board 映画撮影
平成 30 年 07 月	ベッドサイドモニター 2 台
平成 30 年 07 月	人工呼吸器 2 台 増設
平成 30 年 08 月	副病院長に瀨之上雅博氏 就任
平成 30 年 08 月	眼科用検査機器一式 更新
平成 30 年 08 月	鉄砲まつり手踊り 参加
平成 30 年 08 月	救急自動車 導入
平成 30 年 09 月	「ジロ・デ・種子島2018」サイクリング大会 救護支援
平成 30 年 10 月	種子島医療センター看護PR大使に 松原奈佑氏（女優）を任命
平成 30 年 11 月	病理解剖 3 例目実施
平成 30 年 11 月	電話機交換、配線工事
平成 30 年 11 月	厨房床改修工事
平成 30 年 11 月	日本病院機能評価機構による病院機能評価受審
平成 30 年 11 月	病院近隣土地の購入(1,940.86㎡)
平成 31 年 01 月	社会医療法人に係る実地検査（鹿児島県）
平成 31 年 03 月	駐車場拡張工事
平成 31 年 04 月	鹿児島大学に寄附講座「心血管病予防分析学講座」を設置
平成 31 年 04 月	事務部に企画広報課設置

# 組織図



# 委員会・会議組織図



(令和元年7月1日現在)

氏名	年月	診療科	役職名
田上 寛容	H16. 4. 1	循環器内科	理事長
高尾 尊身	H26. 4. 1	外科	病院長
田上 純真	H15. 4. 1	眼科	副院長・眼科部長
猿渡 邦彦	H27. 4. 1	皮膚科	副院長・へき地医療センター長
濱之上 雅博	H30. 8. 1	外科	副院長
出先 亮介	H31. 7. 1	外科	外科部長
大迫 祐作	H30. 8. 1	外科	消化器・乳腺甲状腺外科医長
島田 紘一	H26. 4. 1	内科	外来医長
田淵 雅裕	H31. 4. 1	消化器内科	消化器内科部長
松本 松昱	H27. 4. 1	神経内科	総合診療科部長
高山 千史	H17. 1. 1	麻酔科	麻酔科部長
高橋 建吾	H30. 4. 1	整形外科	整形外科部長
小倉 拓馬	H31. 4. 1	整形外科	整形外科医長
岩元 二郎	H29. 4. 1	小児科	小児科部長
中村 達郎	H30. 4. 1	小児科	小児科医長
長濱 潤	H30. 7. 1	小児科	小児科副医長
池村 紘一郎	H23. 4. 1	わらび苑	施設長
竹野 孝一郎	H16. 1. 1	田上診療所	診療所院長

## 職員数

(各年度4月1日現在) 単位：人

	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		H31年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師	19		17		21		19		20	
看護師	(計165)	(計 21)	(計167)	(計 19)	(計175)	(計 27)	(計174)	(計 22)	(計171)	(計25)
正看護師	76	6	75	9	82	12	89	7	96	9
准看護師	43	8	44	2	43	5	39	4	35	4
看護助手	33	4	33	7	34	7	33	8	28	9
クラーク	13	3	15	1	16	3	13	3	12	3
薬剤師	4	0	2	0	4	1	5	0	5	0
放射線技師	6	0	6	0	6	0	8	0	7	0
臨床検査技師	4	1	6	1	5	1	5	1	5	1
リハビリテーション室	(計 49)	(計 2)	(計 46)	(計 2)	(計 54)	(計 1)	(計 62)	(計 1)	(計 64)	(計 1)
理学療法士	25	2	23	1	27	1	32	1	38	1
作業療法士	15	0	14	1	16	0	20	0	19	0
言語聴覚士	6	0	7	0	9	0	7	0	4	0
あん摩指圧	3	0	2	0	2	0	3	0	3	0
臨床工学技士	5	0	7	0	8	0	10	0	10	0
管理栄養士	2	0	2	0	2	0	2	0	4	0
医事課	(計 15)	(計 10)	(計 15)	(計 9)	(計 13)	(計 10)	(計 11)	(計 11)	(計 10)	(計12)
" (入院)	6	0	6	0	4	0	3	0	3	0
" (外来)	9	2	9	2	9	3	8	4	7	6
" (フロア)	0	6	0	5	0	5	0	5	0	4
" (電話)	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
医療情報管理	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
システム管理室	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0
地域医療連携室	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
事務室	6	1	7	1	7	1	10	1	10	1
庶務	2	6	2	5	3	4	3	7	3	8
用度管理室	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
保育所	5	2	5	2	5	1	5	1	3	2
その他	5	3	6	3	6	4	5	3	7	3
合計	294	46	294	42	315	50	325	47	325	53



年	月	日	内 容
平成 30年	4	2～5	新規採用者オリエンテーション 【接遇研修】A-Cube株式会社 代表取締役会長 立元 昭子様 【労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識】 石走社会保険労務士事務所 所長 石走 啓一様
		2～10	医学生実習（鹿児島大学2名）
		2～28	研修医受入（福岡大学病院1名、鹿児島大学病院1名）
		4	リハビリテーション室研修会『促通反復療法研修会』 促通反復療法研究所 所長（鹿児島大学名誉教授）川平 和美先生
		11	医療法人看護学校 病院説明会
		12	新入職員歓迎会（ホテルニュー種子島）
		16～24	医学生実習（鹿児島大学3名）
		21	ナース専科就職ナビ合同就職説明会出展：東京ビッグサイト
		25	第5回 研修医発表会～研修を終えて～ 堀口 達史先生（鹿児島大学附属病院） 東 沙羅先生（福岡大学病院）
		26	看護部勉強会『当院における栄養管理』 講師：栄養管理室 室長 渡邊里美
		29	第4回 種子島医療センター杯ゴルフコンペ（コスモリゾート種子島ゴルフクラブ）
		5	1
	7～15		医学生実習（鹿児島大学3名）
	7～25		研修医受入（済生会 松山病院1名）
	7～31		研修医受入（福岡大学病院1名）
	18		ケアカフェ種子島 38名参加
	21～29		医学生実習（鹿児島大学3名）
	23		細川 裕子先生 サックス演奏会
	23		第6回 研修医発表会～研修を終えて～ 細川 裕子先生（済生会松山病院） 上田 章貴先生（福岡大学病院）
	24		看護部勉強会『看護記録監査報告会』 講師：看護部記録委員
	25		平成30年度 第1回社員総会・理事会（福元法律事務所）
	25、31	院内感染勉強会『当院における感染対策への取り組みについて』 講師：感染管理認定看護師 下江理沙	
	6	1	映画「ライフ・オン・ザ・ロングボード 2nd Wave」撮影開始挨拶
		1	医療安全研修会『最強医療コミュニケーションなんでやねん力』 講師：Wマコト 中山 真様、中原 誠様
		1～30	研修医受入（南風病院1名、福岡大学病院1名）
		3、10	映画撮影（種子島医療センターにて）
		4～12	医学生実習（鹿児島大学3名）
		7、8	看護部勉強会『MRI検査・安全対策講習会』 講師：画像診断室
		16	鹿児島県医師会会長賞「看護業務功労賞」受彰 飯田ゆりえ（種子島医療センター）、政田育子（田上診療所）
		18～26	医学生実習（鹿児島大学3名）
19、20		看護部勉強会『輸液の安全な管理方法について』 講師：大塚製薬工場MR前之園様	
6/21		伝達講習会『がんのリハビリテーション』 講師：がんリチーム 松尾勇佑、八嶋真、大津留麻子、田上めぐみ、迫田かおり	
26		院内講演会 【入職講演】 消化器内科 羽田 明生先生 小児科 中村 達郎先生 【退職講演】 『種子島の思い出・腰椎圧迫骨折について』整形外科 島ノ江 研斗先生 『種子島の一年間』小児科 井上 博貴先生 『種子島の波について』内科 遠迫 孝昭先生	
27		第7回 研修医発表会～研修を終えて～ 桑野 孔仁子先生（南風病院） 千田 友紀先生（福岡大学病院）	

# 病院日誌

年	月	日	内 容	
平成 30年	7	1	看護部勉強会『フィジカル所見と画像検査』 講師：鹿児島大学病院 救命救急センター 副センター長 有嶋 拓郎先生	
		2～10	医学生実習（鹿児島大学3名）	
		2～20	研修医受入（済生会 松山病院1名）	
		2～31	研修医受入（鹿児島大学病院2名）	
		5	輸血勉強会『輸血の取り扱い、輸血過誤、最新のトピックスについて』 講師：日赤センター 学術部 寺野様	
		6	めいろうこども園 七夕事業所訪問	
		11～13	種子島中央高校生職場体験 8名（リハビリ2名、薬剤部1名、看護部5名）	
		13	看護部勉強会『よりなじみやすい認知症看護を考えてみよう』 講師：せいざん病院 副看護部長 日本精神科医学会 認知症認定看護師 西田 多美子様	
		18	小児科ヘルニアオペ1例目 家入里志教授	
		18	院内講演会『ちいさな命をまもり、その未来を創る手術—小児外科医療の最前線—』 講師：鹿児島大学病院 小児外科 教授 家入 里志先生	
		19、25	第8回 研修医発表会～研修を終えて～ 坂本 裕司先生（済生会松山病院） 益田 大夢先生、榮樂 隆一先生（鹿児島大学附属病院）	
		22	国上遠泳大会（医師看護師派遣）	
		24	院内講演会 【入職講演】 整形外科 高橋 建吾先生 内科 岡村 祐己先生 小児科 長瀨 潤先生 【退職講演】 『種子島での二年間』 外科 肥後 直倫先生	
		26	西之表市教育委員会主催遠泳大会（医師看護師派遣）	
		27、8/3	腰痛予防講習会 講師：リハビリテーション室 本城 裕美	
		28	種子島医療センターBBQ大会（プロイラー）	
		28	ふれあい看護体験（種子島高校生5名、種子島中央高校生2名 参加）	
		30～8/3	鹿児島大学看護科 総合テーマ実習 3名	
		31	医療安全研修会『医療安全を支える知識と意識～2018夏～』 講師：病院長 高尾 尊身先生	
		8	1	「へいじろう」2018夏 第46号発刊
			1～31	研修医受入（北海道大学病院1名、鹿児島大学病院1名、鹿児島医療センター1名）
			1～9/30	ストレスチェック実施
			2、3、9、10	看護部勉強会『人工呼吸器の取り扱い』 講師：臨床工学技士 細山田重樹、西伸大、上妻友紀、熊野朋秋
			7	院内講演会『アイキャンプ報告会』 講師：副院長 眼科医師 田上 純真先生
			19	種子島鉄砲祭り 手踊り参加（79名）
			22	東京大学体験活動プログラム 4名来院（西之表市経済観光課企画）
			24	第9回 研修医発表会～研修を終えて～ 宝輪 美保先生（北海道大学附属病院） 中崎 華子先生（鹿児島大学附属病院） 喜山 敏志先生（鹿児島医療センター）
			27～31	鹿児島県地域枠医学生離島実習（鹿児島大学医学生5名）
			27～31	職員健診実施
			28	院内講演会・入職講演 消化器内科 岡村 貴子先生 外科 大迫 祐作先生 副病院長 外科 瀨之上 雅博先生
			29	院内感染勉強会 講師：BML 下嶋様 『ウイルス感染症、針刺し事故、多剤耐性アシネトバクターについて』
31	新地先生研修会①『周術期ケアについて』 講師：鹿児島大学保健学科 教授 新地 洋之先生			

年	月	日	内 容
平成 30年	9	1~29	研修医受入（鹿児島大学病院1名）
		5	看護部勉強会『血圧が下がりました。どうしましょう！』 講師：麻酔科 部長 高山 千史先生
		8	救急医療県民講座講演会（西之表保健センター すこやか） 『ほっとくと危ない身体症状の特徴』 講師：総合診療科部長 松本 松昱先生
		9	市民公開講座『リハビリテーションとは』 講師：早川 亜津子(部長・PT) 濱添 信人(副室長・OT) 山口 純平(副主任・PT) 松尾あやの(ST)
		9	「ジロ・デ・種子島2018サイクリング大会」救護参加
		21	新地先生研修会②『術後ドレーン管理』 講師：鹿児島大学保健学科 教授 新地 洋之先生
		21	第3回 ケアカフェたねがしま 開催（本院4階会議室）
		23	第5回 種子島医療センター杯ゴルフコンペ（コスモリゾート種子島ゴルフクラブ）
		25	第10回 研修医発表会～研修を終えて～ 有村 萌先生(鹿児島大学附属病院)
	27	院内保育所立ち入り検査	
	27	院内クリニカルパス大会 ①大腿骨頸部骨折における人工骨頭挿入術パス：2階病棟 ②白内障手術パス：3階西病棟	
	10	1~31	研修医受入（福岡大学病院1名）
		12	がん化学療法講演会in種子島 「がん化学療法における認定看護師の役割～経口抗がん剤への取り組み～」 鹿児島市医師会病院 看護部 三浦 ひとみ 様 「緩和ケア領域で薬剤師ができること」 鹿児島市医師会病院 薬剤部長 中島 誠 様 「当院の外来化学療法の紹介」 種子島医療センター がん化学療法看護認定看護師 山之内 信
		16	医療安全研修会 『訴訟・トラブルにまきこまれない、種をまかないためのトレーニング』 講師：アパート株式会社リスクコンサルティング ラナー益満 美登様
		17~19	種子島高校2年生 就業体験学習6名
		18	院内研修会『BLS（一時救命処置）研修』 講師：西之表消防署 救急救命士
		19	院内避難訓練
		19	新地先生研修会③『急性腹症1』 講師：鹿児島大学保健学科 教授 新地 洋之先生
		19	平成30年度 第2回社員総会・理事会（本院4階会議室）
		20	第16回 種子島医療センター杯 種子島鉄砲ゲートボール大会（西之表市営グラウンド）
		23	医療監視（西之表保健所による立入検査）
		24	院内講演会 ①「プラチナ社会」総括寄付講座の活動紹介 ②西之表(種子島)の状況 データ・自治体の取組 ③地域住民の健康管理における医療機関の重要性 地域住民の健康管理(健診)に、医療機関が連携して関わる意義 講師：東京大学「アラサ社会」総括寄付講座 特任助教 下野 僚子先生
		25	院内勉強会『麻薬の取り扱いについて』 講師：薬剤部主任 渡辺祥馬
		27	種子島医療センター看護PR大使 女優・松原 奈佑さん 辞令交付式
		27	サロン種子島・秋のミニ音楽会（種子島ウインドアンサンブル様）
		29	第11回 研修医発表会～研修を終えて～ 熊谷 浩紀先生（福岡大学病院） 院内感染勉強会『今年度のインフルエンザ対策について』 講師：感染管理認定看護師 下江 理沙
		11	1
	1~30		研修医受入（鹿児島大学病院2名）
	14		病理解剖3例目
	21、22		日本医療機能評価機構による訪問審査
25	脳卒中対策講演会(西之表市民会館ホール) 座長：病院長 高尾 尊身先生 講演①「脳卒中の予防について」 理事長 田上 寛容先生 講演②「脳卒中とその治療」 鹿児島大学病院 脳神経外科 教授 吉本 幸司先生 「種子島医療セン体操」 講師：リハビリテーション室 スタッフ		
27	第12回 研修医発表会～研修を終えて～ 鬼塚 公介先生、古賀 甲菜先生（鹿児島大学病院）		
30	新地先生研修会④『急性腹症1』 講師：鹿児島大学保健学科 教授 新地 洋之先生		

# 病院日誌

年	月	日	内 容		
平成 30年	12	5	接遇&マナー研修会『温もりと思いやりのある医療を目指して』 講師：日本エアコミュニーター 指導客室乗務員(ナ担当) 安楽 正子様		
		6	第4回リハビリテーション室研究発表会 「高齢者における二重課題を用いた転倒予防～歩行と座位における二重課題条件下トレーニングの有効性の比較検討～」中村 彩乃 「嚥下機能の改善に関する要因の検討」馬場 優香 「マッサージだけで、肩関節可動域に変化があるか」小脇 尚代 「回復期リハビリテーション病棟での院内デイケア導入後の効果検証」貴島 知世 「訪問リハビリ終了者の実態調査」坂口 淑子 「当院外来患者様のロコモティブシンドロームの実態調査」末吉 優紀乃 「高齢者『がんのリハビリテーション』の現状-第一報-」松尾 勇佑		
		7	「在宅復帰施設としての現状の把握と課題について-入所サービスに関する全国とのデータによる比較調査より-」川原 理栄子		
		11	院内保育所クリスマス会 医療安全研修会『医療安全を支える知識と意識～危険な師走～』 講師：病院長 高尾 尊身先生		
		13	介護教室『移動動作介助』 講師：リハビリテーション室PT 中村 裕二、中村 彩乃		
		14	病院玄関イルミネーション点灯式		
		15	医療安全研修会『危険予知トレーニング』 講師：テルモ株式会社 神崎 勇二様		
		24	病院忘年会（ホテルニュー種子島） 西之表基督教会クリスマスキャロル		
		平成 31年	1	4	仕事始め
				4～31	研修医受入（福岡大学病院1名）
				7	平成30年度 永年勤続者表彰（16名）
				11	社会医療法人に係る実地検査 県保健医療福祉課
				16	医療安全研修会『リハビリテーション室 リスクマネジメント研修』 講師：リハビリテーション室 副室長・作業療法士 濱添 信人
				22～24	種子島中学生職場体験6名
23、24	医療安全研修会『造影剤のリスクマネジメント』 ①造影検査の食事と水分摂取について ②造影CT検査における看護のポイント(院内WEBカフェから) 講師：放射線技師 田上直生、江口佳奈				
24	種子島医療センター看護PR大使 女優 松原奈佑 講演（鹿児島県医療法人協会立看護専門学校） テーマ：『地域医療・離島医療における これからの看護・介護のかたち』				
1/28～2/1	鹿児島大学病院Woc竹原沙織さん派遣受け入れ				
28	第13回 研修医発表会～研修を終えて～ 大西 菜月先生（福岡大学病院）				
29	看護部勉強会『認定看護師を知ろう！』 講師：がん化学療法看護認定看護師 山之内 信、感染管理認定看護師 下江 理沙				
30	褥瘡対策講演会『褥瘡予防(ポジショニング・スキンケア)スキンケアについて』 講師：鹿児島大学病院 皮膚排泄ケア認定看護師 竹原 沙織先生				

年	月	日	内 容	
平成 31年	2	1	「へいじろう」2019冬 第48号発刊	
		1	東京大学体験活動プログラム 3名受入(西之表市経済観光課企画)	
		2	鹿児島大学病院肝疾患相談センター 市民公開講座in種子島『健康な肝臓で100歳現役！』 司会：鹿児島大学病院 肝疾患相談センター副センター長 森内 昭博先生 ①「あなたの肝臓、大丈夫ですか？」鹿児島大学病院消化器内科 馬渡 誠一先生 ②「ウイルス肝炎と全身の病気」鹿児島大学病院消化器内科 楠 一晃先生 ③「あなどれない脂肪肝」鹿児島大学病院 肝疾患相談センター 小田 耕平先生 ④「おなかの健康と肝臓」鹿児島大学病院消化器内科 熊谷 公太郎先生	
		12	種子島高校 島内企業連絡情報交換会	
		13	BCP訓練	
		14	院内クリニカルパス大会 ①鼠径ヘルニアパス 外科医師 大迫祐作先生、2階病棟看護師 鮫島昇樹 ②ERCPパス 消化器内科医師 羽田明生先生、3階西病棟看護師 日高靖浩	
		15	緩和ケア講演会『がん患者として子供たちに伝えたいこと』 講師：NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾様	
		15	第4回 ケアカフェたねがしま	
		18~22	特定業務従事者職員健診	
		19	院内感染勉強会『耐性菌について』 講師：パックコントロールセンター 長能様	
		22	新地先生研修会⑤『手術の3要素とは？』 講師：鹿児島大学保健学科 教授 新地 洋之先生	
		28	第27回 介護・看護研究発表会 【介護研究の部】 「麻痺・拘束等により生じる手掌・手指間の臭いへの対策」横山夢乃 「入浴日の変更により時間短縮につながった研究」南香織 「良い環境を提供するための工夫」三瀬祐子 「入浴時の衣類の取り違えをなくすために」日高美代子 【看護研究の部】 「外来診療がスムーズに行えるように多職種との協働を目指して」 ～初診問診票の取り組みを通して～坂下紀子 「めざせ！院内発生褥瘡ZERO」渡辺由香	
		3	3	すこやかフェスタ（西之表市保健センターすこやか） 『禁煙サポート講演会』講師：病院長 高尾 尊身先生
		9	ナース専科就職ナビ合同就職説明会出展：福岡スターレーン	
		12	消化器領域周術期管理「リスクマネジメント」と「処置・対応」 講師：副病院長 外科医師 瀧之上 雅博先生	
		14	種子島医療センター看護PR大使 女優 松原奈佑 講演（学校法人南学園 鹿児島医療福祉専門学校）	
		19	医療安全研修会『医療安全を支える知識と意識～2019.春～』 講師：病院長 高尾 尊身先生	
		23	ナース専科就職ナビ合同就職説明会出展：東京ビッグサイト	
		26	院内講演会・退職講演 「内視鏡in種子島」消化器内科 羽田 明生先生 「種子島での1年半」整形外科 伊集院 俊郎先生	
		29	新地先生研修会⑥『高齢者の手術適応評価について』 講師：鹿児島大学保健学科 教授 新地 洋之先生	

